

戦没者に流される涙

1945 年初頭、日本軍は沖縄本島への米軍侵略を遅らせることができるのではという希望を胸に抱き、慶良間諸島に特攻攻撃用の船 200 隻を隠し持っていました。しかし、3 月 23 日、慶良間に大量の艦砲射撃を放ち、日本軍を不意打ちしたのは米軍で、彼らは特攻攻撃用の船と日本軍が隠れる防空壕を破壊しました。米軍は 3 月 26 日に座間味の群島に上陸、3 月 27 日に渡嘉敷に上陸。ついには、この座間味 諸島を沖縄本土上陸作戦の補給基地として利用しました。

日本軍の特攻攻撃隊は離散し、地元の人々は爆撃を恐れ、彼らは山の奥深くへと逃げ込みました。恐怖でうろたえどこにも隠れる場所がなく、彼らは北部にあるにし山で自決しました。3 月 28 日、命令に従い、彼らは集団自決したのです。手榴弾、小銃、鎌、鋤、剃刀が手に入った人々はまだ幸運だとみなされました。武器や刃物の類を持たない者は、即席の縄で窒息死するか、山火事の中に飛び込まなければならなかったのです。

白玉の塔（文字通り、「白真珠の塔」は、おそらく涙の意味です）戦争慰霊碑は、1951 年 3 月 28 日、6 年後に公になりました。慰霊碑は、383 名の島民、81 名の日本兵、92 名の軍人軍属、42 名の防衛軍を追悼しています。慰霊碑はもともと、実際に大量自決が起こった場所（ここには現在、国立沖縄青少年交流の家があります）に建っていましたが、1960 年に米軍が軍事目的でにし山を接収した後、1962 年にここギズ山に移されました。

毎年、戦死者の遺族が、この島で正式な慰霊の日の 3 月 28 日に、慰霊祭に参列しここで戦死者を追悼します。慰霊碑を注意深く見てみてください。日本語の単語が読めなくても、同じ文字が何度も繰り返されていることが分かるでしょうか。みなが家族で、一族が亡くなったことが記されています。